

平成 26 年度 大庄北中学校の大地震対応方針

震度等はいくまでも目安であり、具体的な対応は実情に応じて判断する。

A 学校が授業中の場合

震度及び津波 (阪神南東部)	発生直後	安全確認前	安全確認後
震度 5 弱	授業を中断し、机等の下に一次避難し校庭に二次避難させる。	生徒を学校に止めおく。	状況により再開するか下校させるか判断する
震度 5 強以上 6弱まで 津波警報なし	授業を中断し、一次、二次避難させる。		校舎、校庭、通学路の安全確認後、下校させる
震度 6 強以上 及び 津波警報あり	授業を中断し、一次避難後、 ・1年生 本館 3 階各教室 ・2年生 本館 3 階廊下 ・3年生 本館 3 階図書室・視聴覚室		校舎、校庭、通学路の安全を確認し、警報解除後に下校させる

- 1 事前に「防災（災害）対策に関する調査」を実施し、安全確認後であっても保護者が帰宅困難で本校に残留させたいと回答した生徒は学校に残す。
- 2 放課後の場合、学校に残っている生徒について対応する。
- 3 正確な情報収集に努め、より安全な避難に心掛ける。
- 4 状況により、命の大切さを考え臨機応変に対応する。

B 登校前・下校後の場合

場 面	震 度	対 応
登校前	震度 5 弱～強	学校から連絡があるまで、自宅待機する
	震度 6 以上	その日は休校とし、学校からの連絡を待つ
下校後	震度 5 弱～強	翌日は自宅待機し、学校からの連絡を待つ
	震度 6 以上	翌日は休校とし、学校からの連絡を待つ

C 登下校中の場合

震 度	対応(自主対応)
震度 4 まで	危険を回避して、情報を周囲から聞いて安全に留意して登校する
震度 5 以上	・頭を守り、周囲の状況から自分で判断して、行動する ・自分のいる場所から帰宅するか登校するか判断して避難する

- 5 登校した生徒についてはA対応と同じ。また、自宅に戻った生徒はBと同じ。
- 6 中学校では、発達段階を考慮し、引き渡し及びその訓練は行わない。